

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

藤堂家染井屋敷内の堀跡か？ 大型柱穴列を発見



発見された大型の柱穴列。およそ20mにわたり160cmほどの間隔で並んでおり、堀などと考えられます。

昨年の猛暑は何だったのかと思いたくなるほど、今夏は過しやすかったです。発掘調査はまだまだ暑い日が続いています。さて今回ご紹介するのは、染井遺跡三菱地所駒込四丁目第二マンション地区の発掘調査です。江戸時代には「染井屋敷」と呼ばれた津藩藤堂家下屋敷・抱屋敷の一面にあたります。8月17日から調査を始め、ようやく前半戦が終了したところです。

前半戦の大きな発見としてまず挙げられるのは、調査区の北端で確認された大規模な柱穴列です。「柱穴列」とは柱跡が複数基並ぶものの総称ですが、発見されたこの柱跡は東西20mにわたり、160cmほどの等間隔で一列に並んでいます。調査区の端のためはっきりとはわかりませんが、堀か柵のような施設で、屋敷地内のひとつの境を示しているかと想定されます。柱跡の断面を横から観察すると、礎石などを用いない、いわゆる^{ほったて}掘立柱で規模や深さがほぼ同様に造られているのが分かります。上写真では遺構を「^た截ち割り」という方法で断面を見やすいようにしています。場合によってはこのような調査方法をとることで、より視覚的に非常に見やすく、そして遺構の情報をより詳細に掴む事ができるのです。

もうひとつは井戸で、前半戦だけでも3基が発見されています。大抵の場合、井戸を掘っても、水が湧く深さまで掘ることはまずありません。なぜなら実際に人力で掘るには限界がありますし、狭く深いところを掘るのは危険が伴うからです。しかし調査している際に常に考える事があります。それは「井戸の底はどれくらい深いのだろうか？」と。そこで今回は重機(パワーショベル)の力を借りることにしました。その結果は意外なことに底に

達する前、現地表面から5m下で水が湧き出てきました。重機でも肝心の井戸の底まで掘ることはできませんでしたが、水が湧く深さが判明したことは重要な成果であったと言えます。また井戸からは実にさまざま遺物が出土しています。陶磁器に混じって板材や木製品が、江戸時代から今日まで腐ることない状態で見つっています。このほかにも地下室、埋甕、埋桶、生垣状遺構、また十数枚重なった銭と共にかわらけ(土器皿)数枚を埋めた遺構など、興味深い遺構が数多く確認されています。

後半戦の調査では、調査区を横断する堀と思われる遺構もご紹介できるかと思っておりますのでご期待下さい。なお、下記の遺跡見学会では発見された遺構や出土した遺物、加えて調査中である発掘作業も実際にご覧いただけます。ぜひ足を運んでみてください。(高木翼郎)



井戸を截ち割った様子。この足もとまで地上から5m。この下わずか10cmほど下で水が湧き出しました

遺跡見学会を開催します

このたび遺跡見学会を開催いたします(事前申し込み不要)

日時: 2009年10月10日 土曜日(雨天の場合は11日)

午前10時30分から午後3時まで

調査員による解説: 午前10時30分と午後1時30分の2回

場所: 豊島区駒込四丁目14番(区立駒込西公園斜向い)

スニーカーなどの歩きやすい靴でお越しください。

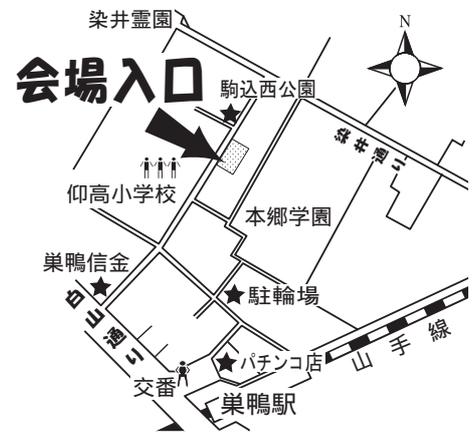
問い合わせ: 豊島区教育委員会

総務部教育総務課文化財係

Tel: 3981-1190

当日連絡先: としま遺跡調査会

Tel: 3915-6962



JR 巢鴨駅より徒歩10分程度です

"Let's Try 考古学" で一日考古学者!

毎年好評の一日発掘体験講座"Let's Try 考古学"を開催いたします(主催: 豊島区教育委員会)。今年は上の記事でもご紹介いたしました大名屋敷、津藩藤堂家「染井屋敷」の一角にて行います。あなたも一日考古学者になって、大名屋敷を掘ってみませんか。

日時: 2009年10月10日土曜日(雨天の場合は11日)

午前10~午後3時(12~1時まで休憩、昼食は各自ご用意ください)

場所: 染井遺跡 豊島区駒込四丁目14番地(区立駒込西公園斜向い)

対象: 区内在住・在学の小学校5年生~中学生(小学生は保護者同伴)

人数: 10組(20名)程度 汚れても良い服・靴、帽子・タオル・筆記用具などご用意ください

費用: 無料

内容: 午前 発掘調査(屋外で遺跡を掘ります)

午後 遺物整理作業(テントの下で遺物を洗ったり観察したりします)



昨年度の"Let's Try 考古学"の様子

申込・問い合わせ: 豊島区教育委員会総務部教育総務課 文化財係

Tel: 3981-1190

豊島区の文化財展 ただいま準備中！

今年も文化財ウィークに合わせて、11月2日から11月13日まで豊島区役所本庁舎の1階ロビーにて「豊島区の文化財展2009」を開催します。5回目となる今年は、近年新たな発見が相次いでいる雑司が谷遺跡、特に鬼子母神参道門前の発掘調査から得られた成果についてご紹介します。

今日の鬼子母神周辺は都心にいることを忘れるくらい閑静な地域ですが、江戸時代には鬼子母神に参詣する人が多く、参道には茶屋や料理屋が建ち並んでいました。その様子は『江戸名所図会』や『江戸高名会亭尽』にも描かれるほどの、江戸郊外でも有数の行楽地でした。今回の展示では、鬼子母神参道沿いの茶屋や料理屋から出土した当時の人々が使った食器類や、魚骨や貝といった食べ物などを、江戸時代の雑司が谷周辺の賑わいをご覧いただきたいと思います。楽しみにお待ちください。

(山田俊輔)



江戸時代の大きなゴミ穴から採取した土を丁寧に選り分けていくと、魚や動物の骨、貝など、当時の人々が食べた残りカスがでてきます。



雑司が谷遺跡から出土した江戸時代の茶碗や皿。数多くの食器が茶屋や料理屋で使われていました

豊島区の文化財展 2009

会期：2009年11月2日～13日

9：00～17：00まで（土・日・祝日除く）

会場：豊島区役所1階ロビー（最寄 JR池袋駅）

展示会場にてパンフレットを無料配布いたします

勤労福祉会館 秋の文化カレッジ

「遺跡が語る豊島区の姿」 受講生募集中

豊島区における遺跡調査の成果を区民の皆様へお届けする活動の一環として、区立勤労福祉会館（（財）としま未来文化財団）主催の「秋の文化カレッジ」にて「考古学でアプローチ 遺跡が語る豊島区の姿」と題した講座を行います。内容は、雑司が谷遺跡での最新発掘成果を織り交ぜ、これまでに明らかとなった雑司が谷地区の鎌倉・室町時代～江戸時代にわたる歴史的な景観の変化を追っていきます。特に、江戸時代の鬼子母神参道沿いに栄えた各種料理屋に関わる内容は、同時期に開催される「豊島区の文化財展2009」とコラボレートしたものとなっており、当会調査員による展示解説も予定しています。残念ながら一般の方の募集は既に締め切っていますが、当会会員の方に限り、以下のように募集を受け付けていますので、ぜひご参加ください。

お問い合わせ：

（財）としま未来文化財団 豊島区勤労福祉会館

：03 3980 3131（担当：星・加瀬）

参加費用：2,900円

募集締切：10月20日（火）17：00

日時	講師	講座内容
10月31日 土曜 14:00～16:00	橋口定志	雑司が谷の中世
11月7日 土曜 14:00～16:00	高木翼郎	鬼子母神門前の料理屋・茶屋(展示解説)
11月14日 土曜 14:00～16:00	宮川和也	雑司が谷の中世古道を歩く(フィールドワーク)
11月21日 土曜 14:00～16:00	成田涼子	雑司が谷の近世

瓦・瓦・瓦

～ 室内整理作業員の瓦奮戦記 ～

今年の夏は瓦一色だった。なにせ瓦の点数は約3万点。重さは3トンを超えるのは初体験である。遺物を広げる場所はあるのか。これを4人でやると思っただけでも気が滅入そうである。

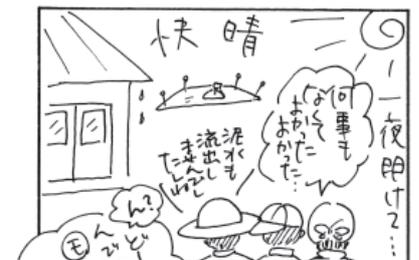
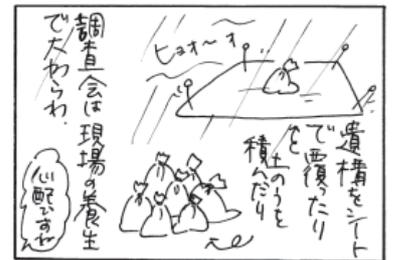
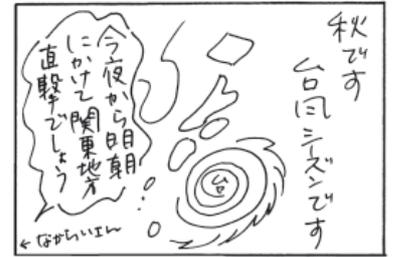
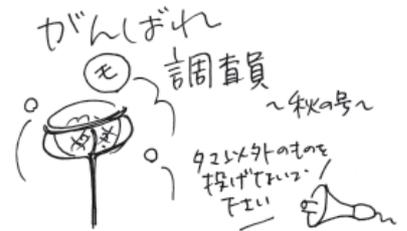
これらは染井遺跡(三菱重工駒込アパート地区)から出土した瓦。大名の藤堂家屋敷地にあたり、区内では出土量が多い。結局、場所が足りず廃校で作業することとなった。部屋は角部屋で開放感があり、夏の暑い時期ではあったが思ったほどではない。理科室だったため実験台が沢山ある。その上に机を汚さない様に紙を敷き、瓦をのせる。台だけでは足りない。校内からいろいろ集めて臨時の台を作る。

まず、平瓦、棧瓦、丸瓦、軒丸・軒棧瓦、そのほかの種類別に分けて接合していく。同じ遺構から出土したのだから接合してもよさそうだが、そうはいかない。瓦の数が多い遺構は取りあえずざっと見て、その後で量を増やしながら接合してみる。けれども、はじめから全部並べたのと大して変わらない。気をとり直して、色・厚み・割れ口の様子・焼き加減等に注目して細かく分けてみる。そのうちに、どこに何を置いたか忘れ、作業台の周りをうろつく。瓦は遺物の中でも特に重い。持ち歩くのは疲れる。もうつかないだろうと思っていると片割れが見つかり、やめるにやめられず。そのうち目が瓦色になりそうだ。

いろいろ苦労は多かったが、慣れれば瓦も面白い。こうした未知との遭遇は作業員の楽しみである。そしてこの続きは調査員の腕次第。報告書に乞うご期待。



(関口 富貴子) 瓦の接合風景 右手前は焼けて色が赤くなっている



調査区内の食べ物の木は、ヒソカナ楽しみのひとつ(笑)。アナタの現場にも隠れ(☺)調査員はいませんか!?

【編集後記】

シリーズ化しました「遺跡のお仕事」。発掘現場・室内作業を問わず調査会の日々の仕事をご紹介します。 (担当:☺)

編集・発行

特定非営利活動法人 しま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス: http://www.toshima-iseki.org/

「つたのは通信」の由来: 蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字: 湯澤和子

ロゴデザイン: 石原幸

イラスト: 島村篤子

マンガ: ☺